（研究ノート）

教育実習指導のあり方（1）
～教育実習Ⅰの結果をふまえて～

小川友惠 *，山本弥栄子 **，柴本枝美 **

要約

本稿では、今年度から新たに始まった幼稚園教諭の養成課程について検討し、分析を行なった。教育実習と事前事後指導の内容を整理し、今後の課題を見出し改善していくための見通しを得ることを目的とする。

まず、本学の教育実習指導のねらいと、実習指導の内容を整理した。そのうえで、教育実習Ⅰを終えた学生の実習日誌を分析することを通して、実習をふまえて学生がどのように学んだかということを検討した。実習日誌をみると、教師の一生懸命さや、職業に対する姿勢に接することで、幼児教育の重要性を実感しているということがみてとれた。

さらに、実習園からの評価と学生の自己評価、実習園に対するアンケート結果について検討し、学生の実態と実習園が学生に期待していることを明らかにした。以上をふまえて、教育実習Ⅰの事前事後指導においては、子どもとのかかわり方から、言葉遣い、実習日誌の書き方、教材研究や環境構成など「実習の学び」の基本事項を定着させることが重要であり、幼稚園教育要領の内容を十分に理解しておくことが必要であるということが今後の指導を改善する見通しとして得られた。

キーワード：教育実習、実習指導、幼稚園教諭の養成、実習評価

2008年9月30日受理（教育研究）

1. はじめに

本学の子ども福祉学科では、資格免許として保育士資格と幼稚園教諭2種免許状、社会福祉主事任用資格が取得できるカリキュラムが編成されている。本学では福祉を担う人として、社会から「あてにされる」人材を育てていくという理念に基づいて教育が行われている。

幼稚園教育要領、保育所保育指針の改定がなされ、認定子ども園の実施が進みつつある中で、保育者にはより高い専門性が求められており、社会の中で果たす役割は重要性を増しているといえるだろう。しかしながら、昨今の学生をみると、体力不足やコミュニケーション能力の弱さが原因となり、実習でつまずいたり、保育者になることに不安や悩みを持つことになりかねないと思われる。

それだけに、次代を担う保育者を育てるためには、教育・保育の現場における実習の体験が重要であるといえよう。子どもを取り巻く様々な環境の変化に対応していくためには、実習指導や実習での体験を通じて基本的で普遍的なことを身につけておく必要があると考えられる。そして、愛情と保育技術だけでなく、保育哲学をもった子どもの代弁者としての保育者を育てていかなければならないと考えている。

本学で今年度から始まった幼稚園教諭の養成課程において、まだ一週間実習を行ったばかりの段階では、明確な課題が見えてこないのではないかということを危惧しながらも、手探りで実施してきた教育実習と事前事後指導の内容を整理して、現状を明らかにし、今後の課題を見出し改善していくための見通しを得ることを目的とする。

* 大阪健康福祉短期大学
〒590-0014　堺市堺区田出井町2-8
大阪健康福祉短期大学　子ども福祉学科
E-mail: t.ogawa@kenko-fukushi.ac.jp
** 大阪健康福祉短期大学

2. 幼稚園教諭養成課程における実習指導の意義と課題

(1) 先行研究からみる教育実習及び教育実習指導の意義と課題

教育実習や、実習にかかわる事前指導、事後指導について分析した先行研究をみてみると、学生や実習園にアンケートを実施し、その調査結果から検討しているものがある。たとえば、事前事後指導の内容と方法を整理したうえで、実習後に学生を対象とするアンケート調査を実施し、教育実習と事前事後指導の現状と課題を整理したもの（小山祥子、2005年）がある。小山は、責任実習は専門性を高める絶好の機会であるが、反対に現場に混乱をもたらす存在となる危険性も明らかにしたうえで、限られた授業の中で、学生個々の能力をどこまで引き上げて実習に送り出すか、という養成校の実習指導者としての課題をとりあげている。その際、事前訪問時に実習期間中の指導計画を把握し、実習で接する子ども達を想定しながら実習生が実習前に具体的な設定保育の活動をイメージしておくことで現場実習をより「自分のもの」としていく重要性をとりあげている。

また、実習園の担任教諭と、学生を対象としたアンケート調査を実施し、その結果から教育実習における効果的な指導のあり方について検討したもの(開仁志、2006年）もある。開は、担任教諭と学生を対象に記述式のアンケートを実施し、それぞれの質問の回答内容を分類し、考察している。そのうえで、①指導教員が教育実習のねらいとして重視していること、②学生への効果的な指導の在り方、③大学との連携の在り方の３つに焦点を当てて、今後の課題を整理している。これらの先行研究では、教育実習と事前事後指導とのかかわりに注目し、その現状と課題を明らかにしている。本稿では、教育実習Ｉにおける事前事後指導の内容について整理し、学生と実習園の評価について検討する。さらに、学生が教育実習Ｉで残した実習日誌を振り返り、教育実習指導の今後の課題について明らかにしたい。

(2) 本学における教育実習の目的

本学の教育実習の目的は、①幼稚園の生活の流れ、教師のかかわりや指導・援助の実際を観察する、②幼児との交流を通して、幼児をありのままに観察し、一人の人間と接し、幼児の心を知る、③幼児の心身の発達に必要かつ充分な環境を整え、幼児の活動を援助する、④指導の目標を立て、環境や計画を整えて、幼児に適切に働きかける方法を具体的な実践を通して学ぶ、である。

表１　幼稚園教諭免許状の種類と幼稚園教員養成課程（必要単位数）

免許の種類		基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科または教職に関する科目	計
幼稚園教諭免許状	専修免許状	大学院修了者（修士の学位を有するもの）	6	35	34	75
	一種免許状	４年制大学修了者（学士の学位を有するもの）	6	35	10	51
	二種免許状	２年課程以上の短期大学および教員養成機関（専修学校・養成所）修了者	4	27		31

表２　幼稚園教員養成課程（幼稚園教諭２種免許状）

系列	教科名	単位数	本学の単位数
教科に関する科目	国語	4	0
	算数		2
	生活		0
	音楽		4
	図画工作		2
	体育		2
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	2	2
	教育の基礎理論に関する科目	4	4
	教育課程および指導法に関する科目	１２	１２
	生徒指導・教育相談および進路指導に関する科目	2	2
	総合演習	2	2
	教育実習	5	5＊
教育職員免許法施行規則に定める科目	日本国憲法	2	2
	体育	2	3
	外国語コミュニケーション	2	2
	情報機器の操作	2	2

＊なお、本学の教育実習の受講にあたっては、次のような先修条件が設けられている（2008年度現在)。「教育実習を受けるには、１年次の後期試験終了時において、卒業及び資格取得のための必修科目の１年次配当科目を取得し、かつ選択科目を含む全修得科目のうち、「可」が３分の１を超えないこと。」(『2008年度学生便覧』p.29)

幼稚園教諭二種免許状取得のために本学に入学してきた学生にとって、教育実習を行うことは他の科目とは異なる意味をもつ。すなわち、子どもに具体的に関わることができるという意味において非常に魅力を持って受け止められている。ただ、実際には総単位数の中に占める割合はごくわずかである。事前事後指導の1単位と、実際の4週間の幼稚園教育実習の4単位に過ぎない。実習以外の教科において、学生が積み重ねてきている専門的な知識は、彼らの成長の核となる。そして、実践的な教育実習を通じて、子どもたちとかかわり、観察し、体験することで、学生は専門職の目的・価値・倫理などについての理解と自覚を深めていく。すなわち、教育実習は、教育者としての使命感や実践力の基礎を培う場になっているといえるだろう。

それゆえ実習指導のプログラムは、綿密かつ系統的に設計されるべきであり、経験と実践に基づく知識の統合を図る必要性があることは言うまでも無い。教育実習指導の科学性と理論性を志向していく立場で、カリキュラムを設定しておく必要がある。

教育実習にかかわる事務手続きは、学生にとって意

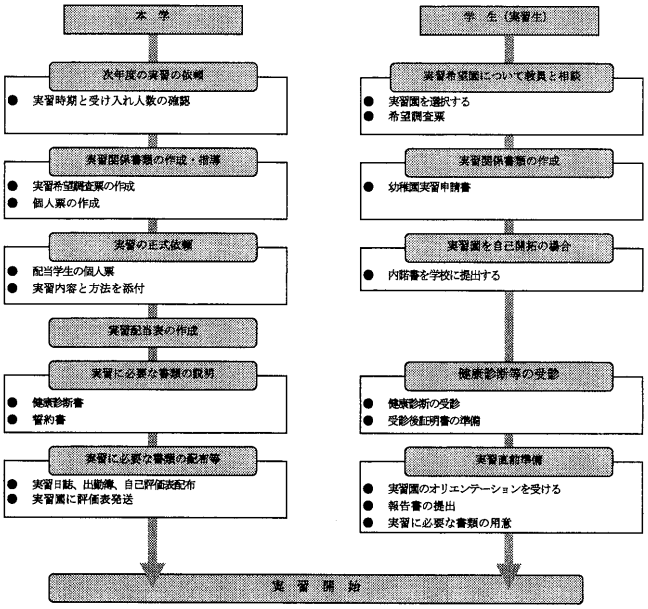

図1　実習が始まるまでの事務手続き

外に面倒で大変なものである。また、学生自身が積極的に行動しなくてはならない。そのうえ、それらの書類には期限があり、一人でも遅れると全体の手続きができなくなることもある。そのことを一人ひとりの学生に徹底させることは、教育実習担当教員にとって非常にエネルギーのいることである。たとえば、実習園の事前訪問では、改まった電話のかけ方や言葉づかい・マナー・服装・身だしなみなどを気にかけ、指導していかなければならない。この指導に関しては、社会人の一歩として指導をおこなう必要がある。そして学生は社会人としてのマナーを学び、自分の中に積み上げていかなければならない。教育実習までに何度かの実習を経てきており、指導を受けてきているにもかかわらず、積み上がっていないという現状がある。この点については、今後の指導のあり方を模索する必要があると考えられる。

3. 本学の教育実習指導のあり方

(1) 本学の教育実習指導のねらい

教育実習は、それまで本学で学んだことを生かし、保育現場において幼児と実際に接することにより、「理論の実践化、実践の理論化」を試みる体験学習の場であるといえるであろう。本学の教育実習Ⅰの事前指導のねらいとして、「幼稚園と保育所の総合的理解につとめ、保育者の業務や役割について知ると同時に、幼児の自発的な活動を促す教育的援助について必要な実践的知識や保育技術の習得を行うこと」を挙げている。

具体的には、以下の内容を学ぶこととしている。①幼稚園の沿革、教育方針、運営等について理解する、②園の一日の流れを理解する、③建物の構造（園舎、教室の配置、園庭など）を把握する、④教材、教具、園具などについて把握する（室内外）、⑤子ども達の様子（どんな遊びをしているのかを把握する）、⑥教諭の職務内容の把握をする、などである。

(2) 実習施設の自己開拓について

本学の教育実習では、実習園の選定をする際、「自己開拓」という方法をとっている。「自己開拓」とは、実習生みずからが実習園を探し、自分で実習を依頼するという方法である。

一般には、実習生みずからが卒園した園など、これまでに実習生自身と何らかのつながりがあった幼稚園を選ぶことが多い。この自己開拓という方法をとると、大学指定による実習園選択よりも、実習生自身の選択肢は広がることになる。しかしながら、実習の受け入れの体制をはじめ、実習期間や実習にかかわる諸条件を実習生みずからが調整しなければならない。

自己開拓の手順としては、まず、実習生が自分で選択した実習園に、あらかじめ電話で連絡をとり、事前訪問の日時の約束を取り付ける。そして、実習園を訪問し、実習の内諾が得られれば、それを受けて、養成校である本学から正式な実習依頼文書を送付する（ただし、公立幼稚園の場合は本学で実習希望学生をとりまとめ、各自治体の教育委員会へ申し出る）、という手順で行なっている。

実習園を自己開拓で選定させることにより、学生自身が実習を行う意識を明確に自覚することができる。そして、実習する意志を伝えたうえで実習園に依頼する作業を通して、「自らが責任を持って実習へ挑む」という意識を高めることにつながると考えている。

養成校指定であれ、自己開拓であれ、実習園を決定する方法について共通している点としては、実習を依頼する段階で実習生自身が必ず一度は実習園に連絡を取り、訪問するということがあげられる。ここで問われてくるのは、電話のかけ方や訪問の仕方など、言葉づかいや身だしなみは当然のこと、実習生自身の社会人としてのマナーである。実習を依頼する段階からすでに幼稚園実習が始まっていることを実習生自身に意識化させる作業として、自己開拓は、本学の教育実習にとって必要な実習指導の一環であると考えている。

教育実習Ⅰにおける自己開拓の実態としては、実習学生数53名であり、自己開拓をしたうえで実習の承諾を得た実習園数は、公立幼稚園が26ヶ園、私立幼稚園が18ヶ園であった。

(3) 指導内容

本学における教育実習指導では、教育実習担当教員で作成した「教育実習ハンドブック」(以下、「ハンドブック」と示す)をもとに、適宜ビデオ等の視聴覚教材を用いながら指導を進めている。学生が実習園で記録する「実習ノート」については、保育所実習の実習ノートを参考に作成し、学生に配布している。

具体的な指導内容について、①事前指導、②巡回指導、③事後指導に分けて、ここで簡単に説明しておきたい。

①事前指導

まず、事前指導の内容である。教材としては、本学で作成した「ハンドブック」を活用して指導にあたった。「ハンドブック」は、教育実習の概要、実習のはじまり、実習のしめくくりの3章と、資料編から成る。事前指導においては、主に前半の2章を中心に説明を行った。指導内容の詳細については、表3のとおりである。

表3 事前指導の内容

	内 容	配布物
1	実習とは何か (教育実習の意義、実習から何を学ぶか)	実習ハンドブック配布
2	実習態度について ビデオから学ぶ	個人票、誓約書記入
3	指導内容 (部分実習に必要なもの) 手あそび・絵本等 実習ノートの記入 (表表紙・概要)	オリエンテーション報告書提出 ・実習ノート配布
4	指導計画づくり、実習課題につて	実習課題下書き提出
5	日誌の書き方 (P10~11) 観察実習のポイント	実習課題清書提出
6	書き方・事前指導、実習園に提出の6点セット点確認	出席表・成績評価表

教育実習指導を始めるにあたって、まず幼稚園における教育実習の概要を説明した。教育実習の意義と目的、その内容について簡単に説明し、実習までの事前指導において行う内容を確認した。

その後、『保育士・幼稚園教諭になるために 第三巻 幼稚園教諭の仕事と役割』(V-tone ビデオライブラリー、新宿スタジオ、2005年10月制作)というビデオを視聴した。学生は、1年次において保育所実習と児童福祉施設実習を経験してきている。そのため、具体的な子どもとのかかわりについてはイメージできやすいかもしれない。しかしながら、幼稚園という施設における実習は、1年次に一日体験を行ったのみであり、本格的な実習は今回が初めてとなる。そのため、幼稚園教諭の1日の仕事のイメージをつかみやすくするために、ビデオ教材を活用して指導にあたった。

また、教育実習Ⅰは観察実習として位置づけてはいるものの、2段階目の責任実習につなげていくことを見通し、「ハンドブック」の資料編を活用しながら、手遊びや折り紙についても説明した。手遊びについては少なくとも10個はマスターして実習に臨むよう指導した。

実習課題についても、各自で設定し、実習後にはそれをもとに振り返りを行うことを伝えて実習に送り出した。観察実習ということもあり、実習課題と設定理由を書くことは、学生にとってやや困難な様子も見受けられたものの、それぞれ自分のこれまでの実習を振り返りながら、実習課題を立てて実習に臨んでいった。

実習にかかわる手続きに関する指導としては、事前訪問の依頼について、個人票、誓約書の記入、実習直前の身だしなみ指導、持ち物の確認などがあげられる。これらについては、授業時間内に随時確認し、徹底できるよう努めた。

②実習期間

実習中には、教育実習担当教員が中心となり、子ども福祉学科全教員で分担して巡回指導を行った。幼稚園実習の巡回指導については、学生にとっても教員にとっても本学では初めてとなる。今回の巡回指導においては、教育実習担当教員が教育実習や実習園を把握することを第一の目的とし、教育実習担当教員を中心に巡回指導を実施した。巡回指導を行うにあたっては、指導の手順を確認し、簡単な報告書に記入して教育実習担当教員が集約した。今後の課題としては、巡回指導を担当する教員が、学生の課題を把握したうえで巡回にのぞめるよう、工夫することが必要であると考える。

③事後指導

実習終了後の事後指導については、表4にまとめた。

まず、実習園の評価表と同じ項目を記した「自己反

表4 事後指導の内容

	内　容	配布物
1	自己反省をする・お礼状作成	自己評価表・お礼状下書き用紙便箋・封筒
2	実習まとめ①：学んだ点をグループで出し合う（3項目）	お礼状清書・発送
3	実習まとめ②：グループで①を深める	
4	実習まとめ③：全体報告会	

省表」に記入し、自分の実習をふりかえった。また、事後指導の中で実習園へのお礼状を作成し、教育実習Ⅰのお礼を述べるとともに、第2段階の実習に向けての心構えを記し、郵送した。その際、自己反省表とお礼状を書くのにやや時間がかかった。ここには、学生一人ひとりが自ら理解し、考えて行動していこうとする意欲と持続力の弱さが現れていると考えられよう。

次に、事前指導で作成した実習課題を改めて読み直し、実習ノートと照らし合わせながら、反省を行った。その際、実習報告会での報告に向けて、次の3つの課題に即して振り返るよう指導した。その課題とは、①保育者の行動（動きと指導のあり方）から学んだこと、②子ども同士のかかわり、保育者と子どものかかわりから学んだこと、③子どもたちが降園した後の保育者の仕事から学んだこと、の3つである。それぞれについてグループで話し合い、まとめたものをグループごとに実習報告会で報告した。

実習報告会において、グループで話し合ったまとめをみると、まず①保育者の行動から学んだことについては、「声の抑揚に気をつける」「子どもをほめる」「子どもたちに『けじめ』を持った行動をとらせていた」「遊びとお勉強のメリハリをつける」「子どもに自信をつけさせる」など、子どもたちへの働きかけに関するまとめや、「片付け名人になってくれる人！」というような具体的な声かけの言葉、「避難訓練でも本当に起こったかのように雰囲気づくりができていた」といった、環境構成に注目したまとめなどがみられた。また、「子どもの気持ちをしっかり受け止めている」「子どもが何かをしようとしているときは邪魔をしない」「直ぐに注意せず、気づくまで見守っていた」というように、子どもたちを観察するという点に注目したまとめもみられた。

次に、②子ども同士のかかわり、保育者と子どものかかわりから学んだことを見てみよう。子ども同士のかかわりでは、「ケンカをしている子がいれば間に入って仲裁している子がいた」という内容でまとめを書いているグループが多く見受けられた。より具体的に「お友達の足を踏んでしまったり、泣かせてしまったとき、直ぐに子ども同士で『ごめんね』『いいのよ』の関係が築かれていた」とまとめたグループもある。子ども同士でケンカの仲裁がなされているという点に驚いた学生が多かったようである。

保育者と子どもとのかかわりでは、「何事にも保育者が直ぐに手を出すのではなく、子どもたちで解決させていた」「子ども一人ひとりを見て、声をかけるべきときか、判断してから声をかける」などのまとめから、保育者が子どもたちを見守り、必要に応じて働きかけることを学んでいることがうかがえた。

そして、③降園後の保育者の仕事から学んだことをみると、どのグループにも、同じような項目がみられる。掃除（保育室、ウサギ小屋など）、壁面（子どもたちの作品の展示、壁面制作など）、行事の準備・打ち合わせ（鼓笛隊の衣装づくり、お泊り保育、園外保育の下見、新入園児へのプレゼントなど）、延長保育、教材準備、反省会、保護者への連絡（怪我をした子の保護者への連絡）、環境づくりなどがあげられていた。

以上のように、学生は教育実習Ⅰから学んでいたことをまとめていた。実習報告会の目的としては、①自分の体験を客観化し、学んだ点を明らかにする、②仲間の報告を聞き、自分の体験併せて深く捉える、③実習Ⅱへの課題を見つけ出す、の3つの目的を考えていた。①と②については、実習報告会の中で、おおむね達成されていると考えられる。しかしながら③については、これらの学んだことが、次の教育実習Ⅱでの課題とつながっていくように配慮することが必要だろう。今回の実習報告会での反省点としては、グループでの話し合いから発表まで一週間空いており、次の保育実習へ気持ちが向かっていたことから、学生の意識の中で発表の内容が記憶から薄れていたのではないかと思われる。また、時間を短縮するために、まとめの表を教育実習担当教員で印刷したこともあり、報告会が報告しただけに終わった。この点については、教育実習担当教員で実習報告会のねらいが十分に共有されていなかったのではないか、また、時間の計画が学生の実態に合っていなかったのではないかと考えられる。

このように、本学における教育実習指導として行っている内容は、大きく2つに分けられる。まず、教育実習の内容にかかわる内容である。ここには、教育実習の意義や幼稚園という施設の性格を学ぶこと、また、

手遊びや折り紙といった実践的な力につながる内容などが含まれるだろう。そしてもうひとつは、実習にかかわる手続きに関する内容である。ここには、個人票や実習ノートへの記入、お礼状の作成といったことがあげられる。

ここにあげた内容について指導を受けた学生が、実際の実習についてどのように感じ、自らをどう評価したか、また、実習園からはどのような評価がなされてきたのか、以下の章で検討していくことにする。

4. 教育実習Ⅰにおける学生の学び

(1) 実習園での学生の実態（実習ノートから）

学生が実習園でどのように学び、幼稚園の教諭からの指導をどう受け入れているのか、知る資料として実習日誌の記録を追ってみる。まず、次ページの図2に示した1日目の実習日誌をみてみよう。

学生の毎日の反省をみると、まず、子ども達から挨拶されたことや、名前を呼んでもらえたことが大きな支えとなって緊張感が和らいでいることがわかる。ただ、日々の活動の中で初めて経験したことや感動したことで精一杯である様子がみてとれる。実習生自身の毎日のねらいをみていくと、1日目「1日の流れを知る」、2日目「子どもの名前を覚える」、3日目「教師の活動をよく見て行動する」、4日目「子どもと積極的にかかわる」5日目「全員の子どもとかかわる」と変化しており、段階的に観察していることがわかる。これらの記述より、実習生と子どもとの関わりについて気づいたことが伺える。

また、実習園から指導を受けて実習生がどう学んだか、という観点から、実習日誌をみていくことにしよう。実習日誌には細かく朱書きで指導が行われている。28ヶ所の朱書きの丁寧な指導があった。ねらい、幼稚園教諭の援助、留意点や配慮などの点に多く指導が見られた。朱書きされた部分については、その都度口頭で指導がなされたり、後日担任教諭からの助言の中で指導されたりしている。

助言の欄では実習生の疑問に対して答えたり、実習生の良さを褒めて励ましている。1日目、2日目と朱書きが少なくなっていき、留意点や配慮なども指導を受けた内容は良くなったと評価されている。

次に、4日目の実習日誌をみてみる。図3に示す。

ここでもたくさんの子どもが挨拶をしてくれたことがとても嬉しいと話している。また、子どもたちを見ていると幸せな気持ちになると記している。学生の子どもへの見方やかかわりも、1人から集団のかかわりへと変化していく。環境構成の欄も、担任教諭から指導されたように図示できるようになってきている。

3日目の実習日誌で、保育教材の準備を通して、指導者の一生懸命さ指導者の職業に対する姿勢を感じとっていることが伺えた。また教師が「子どもへのかかわりは素直で真っ白な心の子ども達にとても大きな影響を与える仕事です」と書いている言葉に対して、「簡単な気持ちではできない」と実習生が書いており、一貫した子どもへの視点を前提とした大変な仕事だという気づきがあったようである。また、「子ども達から『出会ってよかった』と思ってもらえるようになりたい」と書いており、保育者としての姿勢を、5日間という短い実習の中で感じ取ってきたようであった。

図２　実習日誌（１日目）　（▒▒と ═══ は、教師の記述）

平成　２０年　６月　２日　（月　曜日） 天気	実習生氏名	
ねらい	身近にあるものを叩いて聞こえる音の楽しさを味わう	４歳児　たんぽぽ　組
今日の目標	一日の流れを知る	出席　名 欠席　名

時 分	環　境　構　成・子どもの活動	教師の援助・留意点	実習生の活動
9　00	・親子で登園する … … … 例）元気よく挨拶を交わし、一人一人の様子や健康状態を把握する 会	・門の前に立ち、登園してきた子どもたちを迎える ・朝の視診をする ・子どもが着替えるように声かけをする	・門の前に立ち、登園してきた子どもたちを迎える … …
9　15	・朝の~~活動~~をする ・当番の紹介をする ・~~先~~生の話と実習生の自己紹介を聞く 教師 ・（名前を呼ばれたら、返事をする） 出欠調べをする ・当番の~~子ども~~（２人）は職員室に行って、欠席している人数を~~先~~生に伝える	・身支度に時間を要する幼児には、声をかけたり、そばについたりして最後まで自分でできるようにする ・当番の子どもの名前を呼んで、最後まで自分でできるようにする ・先日幼稚園でもらったじゃがいもの話をする ・出席をとる ・欠席している子どもたちが、なぜ休んでいるのかを伝える ・欠席理由を知らせ、友達を思う優しさを伝えていく	・当番活動が意欲的にできるよう声をかけ、自信へとつなげていく ・どのような意図で？ … … …
9　30	・外遊び（砂場・遊具・とびばこなど） 図示があればより理解しやすいかもしれませんね	・子どもと一緒に遊びながら、子どもが怪我をしないように配慮する どのように	・子どもと一緒に遊びながら、子どもが怪我をしないように配慮する どのように配慮しましたか？
10　00	・片づけをして保育室にもどる 手洗い、うがい、排泄をする 例）砂場の用具を片付けやすいようにかごや収納場所には絵で表示したものを張っておく	・子どもが遊具を片付けるように声かけをする ・片付けの時間であることを知らせ、元の場所へ戻すことの大切さを伝えるとともに、きれいになったことへの心地よさを味わわせていく	… … …
10　30	・歌を歌う「すきすきスキップ」 ・音見つけ（リズム遊び） 「音を作って遊ぶ」（…を叩く、…で叩く） （手・ばち・丸めた紙・牛乳パック・段ボール箱・ビーズを入れたペットボトル・バケツ） ・曲に合わせて叩く	・保育室のいろいろなものを叩いてどんな音がするかを子どもたちと一緒に聞いて、子どもたちにもやってみるように声かけをする	・叩き方や叩き合うものによって、出る音の違いに気づかせていく
11　30	・片づけをする・手洗い、うがい、排泄をする ・男女ペアになり机を出して机を消毒する →新しい友だちとのかかわりができるよう、またかかわるきっかけとなるような	… … …	
12　00	・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ・自由遊び　視聴する		
13　00	・帰りの活動をする。絵本を見る「あめふり」	・今日の遊びを振り返り、明日の期待へとつなげる	・子どもが着替えるのを援助し、忘れ物がないように声かけをする
13　45	・降園する（親子降園）		・挨拶をする
14　00			

実践記録〈子どもとのかかわりで印象に残ったこと〉
子ども達はすぐに私の名前を覚えてくれて、「○○先生一緒に遊ぼう」と声をかけてきてくれました。
話をする前に、保育者が「静かに聞いてね」などと声かけをすると、子ども達はしっかりと理解しているように見えました。
着替えや歯磨きをするスピードに個人差がありました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。
一日の感想・反省
今日は一日目だったのでとても緊張してしまいました。
子ども達がケンカがとても少なく、ケンカが怒っても友達同士で解決している姿を見ることができました。
一日も早く子ども達の名前を覚えてたくさん関わりたいと思います。
親子で登園し、降園していく姿を見てとても驚きました。
子ども達は親のことが大好きで、みな目がキラキラしていて…。
親と保育者がたくさん話をしている姿も新鮮で素敵だなぁとおもいました。
指導教諭の助言
・記録の書き方ですが、環境構成について考えてみてください。また、教師の援助や留意点を見取り、記録してはどうでしょうか？“教師の動き”には、幼児への思いやねらいを考慮している場合が多くあります。ただ声をかけるだけではなく、「どのように育ってほしいと願っているのか？」「この活動で何を育てたいと教師はねらっているのか？」を考え…。スピードには個人差が見られますが、時間がかかっても自分でしようとする姿が見えてきています。…。○○先生の笑顔はとてもステキです。子ども達にその笑顔をたくさん見せてくださいね。

図３　実習日誌（４日目）　（　　と ═══ は、教師の記述）

平成２０　年　６月　５日　（木曜日） 天気	実習生氏名	
ねらい	出来上がりを楽しみにしながらマスコットづくりをする	４歳児　　組
今日の目標	子どもと積極的に関わる	出席　　名 欠席　　名

時 分	環　境　構　成・子どもの活動	教師の援助・留意点	実習生の活動
9　00	◎~~親子~~で登園する ・教師とあいさつする ・体操服に着替える	・・・・・・・・・・	門の前に立ち登園してきた子ども達を元気よく挨拶を交わしながら迎える
9　15	◎朝の会をする ・~~当番の紹介をする~~ ・出欠調べをする 当番は職員室に行って欠席している人数を伝える	・　・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・	・　・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・
9　30	・もずっ子広場 （かたつむり作り、土粘土あそび、砂場あそびなど） ※親子であそぶ	…	・　・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・
10　15	・保育室に戻り、手洗い、うがいをする ・トイレに行く	・子どもが保育室へ戻るように声かけをする ・健康な生活に必要な習慣が身につくよう教師も共に行うことで知らせていく	… ・・・・・・・・・・・・・・
10　30 10　15	◎動物のマスコット作り うさぎ、ハムスター、カエル、パンダ、ヒヨコの中から好きな動物を選び、目玉や耳などをぼんどで毛糸の玉にはりつける 場設定、環境図があるといいですね	・作り方の説明をする 子どもの思いが達成でき、充実感が味わえるよう ・~~うまくできない~~子どもの側に~~行き、作り方を説明する~~ついたり、共感したりする	…
11　30	・手洗い、片づけをする ・机を出して~~お~~弁当の用意をする		
11　45	◎昼食を食べる（当番が前に出て「いただきます」と言う） ・食べ終わったら歯磨き、うがいをする	… ・楽しい雰囲気で食べられるように楽しく会話をしながら食べる ・落ち着いた環境で食事ができるようオルゴールなどを鳴らして～	…
12　10	・そうじをする （床はき、雑巾がけ、くつばこそうじ） … …	… … ・着替えが丁寧にできるよう声をかけたり、見守ったりしながら気付かせていく	・排泄に付き添い援助する …
13　30	・降園の準備をする ・帰りの会をする 絵本を視聴する「くわがたのがたくん」	・忘れ物がないか自分たちで確認するように声をかける 笑顔で　　交わす	…
14　00	・~~親子~~で降園する	・明るくあいさつをし、明日も楽しく園にこられるようにする	

実践記録〈子どもとのかかわりで印象に残ったこと〉
今日はＳくんが便を２回もらしてしまいました。Ｓくんは「なんで今日、僕、うんちばっかりでるの？」と
泣きながら私に聞いてきました。私は「ちょっとお腹の調子が悪いのかもしれないね。」と・・・・・・
・・・・・・・・・・・・表情や態度から健康状態を把握するのは難しいですが、・・・毎日関わっていくと、
少しの変化にも気がつけるようになるのかなあ・・・・・
一日の感想・反省
今日 30 分の設定保育をやらせていただきました。・初めてだったので本当に緊張しました。・・・・・・・・・・・・・・・・
自分が想像していた通りに進まず、反省する点がたくさんありました。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・自分の声がコンプレックスだったのですが、先生方にほめていただき本当に嬉しかったです。
子ども達から「出会ってよかった」と思ってもらえるようになりたいです。
指導教諭の助言 Ｓくんの排泄の処理には養護教諭も・・・・・・・「1 度目と 2 度目の便の具合は違っていた」と聞きました。そこまで気づいていましたか？子どもの体の調子、顔色、様子、言葉、いろいろな面から・・。その時の状態に気づいていきたいものです。Ｓ児が言った言葉、・・・私に伝えてほしかった・・・・・保護者への対応、子どもへの声かけに必要な事例だったのではないでしょうか。・・・・・・・・・・・・・・・・・

(2) 実習評価からみえるもの

①学生の自己評価と実習園の評価に関する比較

教育実習後、実習事後指導において、学生自身が実習を振り返り、次の課題につなげるために、教育実習自己反省表を用いた振り返り作業を行った。実習を通して振り返る点については、以下の8項目を設置し、1点から5点までの5件法にて自己評価を行った。その評価基準についても以下、表5に示す。

表5 自己反省表の項目

①勤務態度	挨拶、言葉遣い、時間、身だしなみ、健康管理など適切であったか。
②幼稚園現場の理解	実習園の育てたい子ども像を理解したか。
③幼児への対応	明るく誠実な態度で幼児に接していたか。
④指導計画	本時のねらいを受け取って行動しようとしていたか。
⑤実習姿勢	指導者の指示や助言をよく聞き、即行動できたか。
⑥観察記録	実習日誌の記入は適切であったか。
⑦責任感	提出物の期限を守ることができたか。
⑧環境構成	清掃・環境整備への参加態度はよかったか。

実習後に学生と実習園に実施した教育実習自己反省表の項目は、同様のものを使用した。集計後の結果を図4に示す。

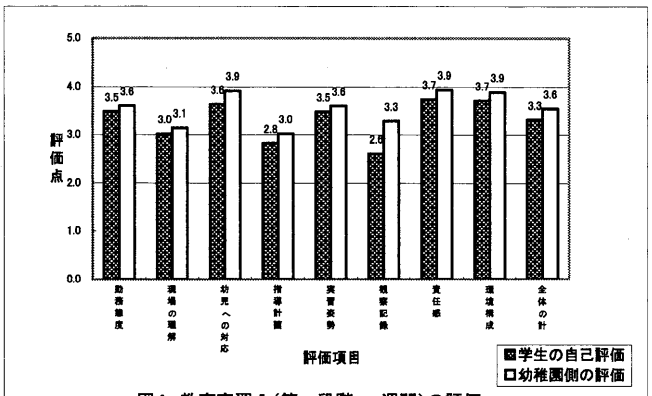

図4 教育実習Ⅰ(第一段階:一週間)の評価

学生側の評価では、「指導計画」と「観察記録」が他の項目よりも低かった。事前指導では、学生自身に幼稚園実習に対する実習課題を書いてもらったが、作業自体に時間を要した。これらのことから、自分の考えをまとめる、まとめた考えを文章化するという作業は、学生にとって苦手な部分であると推察される。特に「指導計画」の設定は、実習生自らが「保育」を設計し、子どもたちの中で率先して保育を行っていく立場としての自覚を持ち、事前に十分な計画性をもって保育に参加するうえで必要な課題である。また、考察力や文章作成能力の部分以外の視点からみてみると、仮に「現場の理解」についての学生の自己評価が低く出たことと関連しているとするならば、本学の養成課程の中で初めての幼稚園実習であり、「幼稚園」という教育機関に対する認識が十分でないこととも関係していると分析できるだろう。「観察記録」に関しては、一日の流れを把握するのみならず、記憶したことを文章化する力をつけることが今後の教育実習の事後指導における課題となる。

②教育実習に対する学生の評価(実態)

自己反省表にもとづいて、実習課題に対する反省を行った。その学生の記述から、特徴的なものを取り上げ、資料1に示した。

資料1 課題に対する学生の反省

- 今回私が学んだことは、良い時にはほめる。注意する時は注意する、などといった「メリハリ」をつけることです。
- 先生は、子ども達に丁寧な言葉掛けをしていました。自分の言葉掛けは普通の話し言葉だったので、丁寧にする努力はしました。でも難しかったです。お行儀とか姿勢、身だしなみを子ども達に指導していました。
- 今回の実習では、子ども達が保育室で遊んだり、園庭で遊んだり、いろいろな場面で保育者がどのように環境構成をしたのかをあまり見られていませんでした。次の3週間の実習では、保育者がどんな環境構成を行っているのか、しっかり見て勉強していかなければならないと思いました。
- 先生は、一つの製作をする時、子どもたちの様子をしっかり見て、次の段階につなげていました。先生は一日の中で、時計を見て行動することが多かったように思えた。
- 子ども達の帰る時間が幼稚園はとても早い分、先生たちは次の日の準備をしたり、後片付けをしたり、清掃をしたり、幼稚園教諭としてやる事はたくさんある事が分かった。
- 私の実習に対する設定課題は「先生の仕事内容を知る」で、特に、子ども達が帰った後、どんなことをしているか知りたかった。実際に実習では、先生方は提示物の作成をしたり、クラスの掃除をしたり、反省会をしていると知った。
- 初めての幼稚園実習で、幼稚園の子は、とても素直でした。また3歳児クラスの担当だったのですが、3歳児は、とてもしっかりしていて、自分でできることはすべてやっていました。どの幼稚園もみな同じではないと思いますが、幼稚園はしっかりしているな、という印象を受けました。
- 先生方は子ども達の降園後も仕事がたくさんあり、私も体験しましたが、こんなにも大変なのだと実感しました。
- 今回のこの実習では、先生たちが保育の仕事だけをしているのではない、ということが分かりました。子ども達の登園前や降園後には園内の掃除や保育室の環境整備、その日の計画をしているものの、準備などを子ども達がいない間にやっていることを知り、お手伝いさせてもらいました。
- 5歳児の担当でしたが、5歳児はある程度できるみたいだったらしいですが、私は「できない」と勘違いをしてしまい、自分達でできることを手伝ってしまって反省しています。今回の実習でもっと、子ども達のことを理解しようと思いました。
- ピアノが練習不足だったので、もっと練習すればよかったと思いました。次はしっかり弾きたいです。
- 今回の実習での反省点は、設定保育の内容と指導案の書き方です。設定保育は、園長先生、准園長先生、担任、一緒に参加していた実習生2人が見にきました。とても緊張してしまい、汗だくになりながら必死にやりましたが、時間配分やルールの説明がうまくできなかったなど、反省点の多い結果に終わってしまいました。この反省を次につなげていけるようにしたいです。

これらの自己反省表の内容をみると、主に以下の3点が特徴として挙げられる。すなわち、①「幼稚園教諭の仕事に対する理解」、②「幼稚園児に対する理解」、③「幼稚園教諭としての姿勢の理解」である。①については、園児の降園後もたくさんの仕事があり、大変であると学生は理解していた。②「幼稚園児に対する理解」では、幼稚園教諭は園児の本来持っている力を捉え、それを伸ばしていく教育的立場で必要となる対象理解へとつなげていることを知った。それゆえに③「幼稚園教諭としての姿勢の理解」として、指導にあたっては、きちんと丁寧に厳しいという印象を学生は受けていた。そして、幼稚園教諭の段取りよくメリハリのついた姿勢を、学生自身が発見することへとつながっていた。

③実習園からのアンケート、評価表（実習園が学生に期待するもの）

実習後、実習生に対する総合評価の中で、今後の本学の教育実習指導に参考になる点をいくつか挙げてみた（波線は引用者による）。

資料2　実習園からの総合評価の内容

＜積極性・実習態度＞
- 今後は机拭きや片付け等の手伝いを自ら進んでできるよう積極性が必要である。
- 朝の登園時間、笑顔で子ども達や保護者に挨拶し、好感がもたれた。保育時間終了後も積極的に環境整備や清掃活動に取り組む姿勢がみられた。
- 保育園との違いを理解して頂けた。実習中、立ったまま傍観していることが多かったので、次回はもっと子どもと関わり、何でも挑戦していただきたい。
- 今回は5日間という短い実習だが、子どもの中に自分からかかわっていこうとする気持ちが日に日に見えてきた。次回は、もう少し笑顔でいるとよい。保育の流れを見るだけでなく、教師の関わり方のねらいなど、質問・疑問を積極的に行い勉強してほしい。

＜実習生としての姿勢＞
- 挨拶もしっかりでき、まじめな勤務態度でさわやかであった。子どもとかかわり過ぎて周りが見えなくなる時があったので、今後気をつけてほしい。
- 母園ということもあり、とても頑張って挑んでいる姿が見られた。期間が同じだった他校の実習生にも声を掛けたりして、リーダー的存在であった。元気な挨拶で子ども達にもすぐ親しんでいた。
- 自分の実習目標に「子どもの目線に立ち」としていただけのことはあり、子どもの気持ちを受け止めながら子どもと関わることができていた。一日の反省会では次の目標を自分で見つけ、次の日からその課題に取り組むなど、とても前向きであった。

＜保育技術＞
- 手遊びや絵本読み、室内装飾（一部）づくりなど、教材研究し、実践しようと努めていた。
- 積極的に子ども達に関わる努力が認められる。ピアノがもう少しうまく弾ける必要がある。
- ピアノも止まってしまうことが多かったので、間違っても弾き続ける練習をした方がよい。

＜実習日誌＞
- 明るく笑顔で子どもと接していた。実習日誌や指導案の記入の仕方は更なる努力が必要である。
- 実習日誌は、誤字、脱字が多く、文脈も把握できないことが多かったので、基本的な国語力をもっと身につけてほしい。積極性もあまり見られなかったので、準備や環境構成において、テキパキと動くように努めてほしい。
- 実習日誌で指導されたことをよく理解し、翌日の日誌は、書き方を直すように努力していた。次回の実習は体調管理に気をつけ、最後まで元気に笑顔で子どもに関わるようにしてほしい。
- 設定保育の日案など期限を守り、完成している物を提出することも大切である。
- 実習日誌については、教師の配慮や読み取りなど、記入すべき部分に不足が多く見られた。今回の実習経験を活かし、次回の実習へとつなげることを期待する。

＜園児に対する理解＞
- 園児の気持ちを理解しようとする積極的な姿勢は好感が持て…[中略]…まだ無理な面もあるかと思うが、一つの集団にのみ集中して関わるのではなく、全体を見ることを次回頑張ってほしい。
- 幼児の行動を観察し、理解しようと努めていた。子ども達一人ひとりに手づくりのメッセージカードを作り、伝えようと努力していた。
- 子どもの姿を見て、捉え、新鮮な目で発見しようとしていた。

＜園児との関わり＞
- 子ども達に明るく笑顔で接することができていた。手遊びを通して子どもと一緒に楽しんでいる姿が印象的であった。
- 真剣に6日間の実習に取り組んでくれた。しかし、6日間の短時間の実習なので、本人の人間性や長所など、見つけにくいまま終了した。
- 1週間の実習ではあったが、幼児への対応もよく、うまくみんなとかかわりにくい子どもへ目を向けるなど、その姿勢に共感できた。また指導者の指示や助言もよく聞き、行動できていた。

このように、積極性に欠ける学生がいると指摘されているのは、教育実習での学びを学生が十分に発揮しきれていないという点で残念であり、指導の強化が必要であると考えている。また、5～6日の実習期間は短く、緊張がほぐれた頃に終わるということになることについては再検討の必要がある。子どもとのかかわりに関していえば、好感を持たれているという印象を受けるが、実習日誌の書き方、内容、提出期間については指導の強化が必要であるといえる。実習園の先生方は、多忙にもかかわらず「後輩を育てる」という熱意のある指導をされており、このことには敬服する。また、実習園から第2段階の教育実習Ⅱにおける実習生の成長に期待するという意見が多かったため、実際の保育技術を増やすことが実習生の実習にむけた課題として求められる。

実習後、実習生に希望する内容を実習園に対してアンケートを行った。アンケートの結果は、以下の資料3の通りである。

資料3　実習園からのアンケート内容

1. 実習園として学生にどういう指導内容をされていますか

①教育対象の理解（幼児理解）
- 実習生が自分から進んで子どもに関わりを持ちながら、幼児理解が少しでもできるようなって欲しいと願い、指導している。
- 子どもを理解する。具体的な援助や励ましの方法を獲得する。
- 子ども達の様子をありのままに、視察して、できるだけ多く触れ合っていただくように努めている。
- 幼児を理解するということはどういうことか。①早く名前を覚える、②平等に接する、③性格や興味についてあらゆる機会を利用し、的確に把握する。
- 幼児や担任教諭とともに生活し、幼児理解、保育指導理解を体験する。

②幼稚園教諭の仕事の理解
- 幼稚園教諭の仕事についても、理解していただけるように努力している。
- 教材研究。
- 日々の保育の中での行動、援助や助言の仕方。
- 教材準備や保育環境に関わっての環境整備。

③社会人としての意識
- 子どもとの関わりでは、現場の指導教諭から見て学び、その日の反省会で、疑問点や考察点について話すようにしている。
- 幼児に沿った行動を取ること
- 指導実習（研究保育）および人的環境、物的環境等、幼稚園現場の理解。
- 主に幼稚園教育要領に沿った幼稚園教育の実際を体験し、学んでいくこと。また、幼稚園の教育計画及び教育課程も含めた保育の実際も体験し、子どもの実態に応じた保育についても、学んでいくこと。
- 実習を通して幼児と関わる中で、幼児理解を深める。また、幼児との接し方を理解する。

④子ども一人ひとりの人間性・個性をつかむ
- 子ども一人ひとりの個性を伸ばし、その子どもに合った指導をしているので、できるだけ早く子どもの特徴をつかむよう指導している。
- 子ども達一人ひとりの人間性を見ていくこと。それには、人間性の見える保育をしないといけませんが。

⑤教育者としての資質
- 幼児教育者としての資質を身につけて欲しい。（普通に人の話を聞く、立ち振る舞い、言葉遣いなど）
- 社会人として、働くことの大切さ
- 教師としての心構え（モデルとしての援助者になるため）、教員としての資質を学ぶ。
- 幼児との適切な接し方、保育内容の認識、保育者としての正しい使命感。
- 職業人としての着実な勤務態度を身につける指導をしている。
- 実際に「先生」として、保育の現場に立った時、困惑しないように保育の計画から実践、反省や改善点までを一つひとつ丁寧に指導している。
- 幼稚園の生活を伝える。
- 生活の流れ、幼児の姿、教師の援助など、具体的な場で学ぶことができるよう受け入れ指導している。

2. 実習園として、学生にどういう指導方針をもたれていますか？

①保育の流れをつかむ
- 一日の保育の流れをよく把握し、積極的に実習に取り組む。

②子どもとのかかわり
- 子ども達との関わりは人と人としてかかわることから始まります。子どもとの関わりを楽しんで欲しい。
- 挨拶や言葉遣いなど社会人としての基礎。
- 子どもに対しての指導はもちろんのこと、社会で働く者としての最低限度のマナー（挨拶、礼儀）は身につける。
- 幼児の観察および援助のあり方を学んでいく。

③大学での学びを生かす（教材研究）
- 実習生が子どもの前で絵本や手遊びを行いながら、保育の難しさを感じ、指導教師の保育の進め方などを学んで欲しい。
- 実習保育までに教材研究を自分から行うよう伝えている。それを実習保育で生かして欲しい。
- 大学で学んだことを、実際の保育をみたり行ったりすることで理論の裏づけに少しでも役立つようにと考えている。
- 大学で学習した知識、技能を総合的に応用し、幼児教育の本質的精神と保育技術を習得するとともに保育者としての資質を、使命感、能力を身につけることを目的として指導している。

④実習生として学び取る姿勢
- 実習生ではあるが、子ども達にとっては影響が大きいので、真剣に実習に努め、指導を素直に受け止め、保育に生かす。
- いろんな面において、すべてに熱心にすること。
- 学ぶものとしての視点。

⑤環境構成や園運営を学ぶ
- 環境整備、学級経営など園運営全般に積極的に参加する。
- 教育方針に沿った保育者の指導のあり方、援助の仕方、環境設定等を学び、実践を通して子どもへの理解を深める。

⑥その他
- 現場では学生ではなく、先生として行動をとるより、自覚をもっていただきたい。
- 心身の健康管理。
- 教育要領をふまえた上での指導について。
- 子どもを大切に愛のある教育をする。
- 子ども達と実際に触れ合うことで、さらに幼稚園教諭への夢を膨らませてほしい。
- 子どもに具体的な保育技術についてもできるだけ体験し、少しでも身につけてほしい。
- 実習する中で、幼稚園教師としての資質を高めるように、子ども達への接し方や教師の配慮の仕方など理解する。

3. その他お気づきになった点があればお書き下さい。
- 子ども達の前でハキハキと話せるようにしておいて下さい。手づくりのプレゼントを子ども達は、とても喜びました。
- 実習中に何か分からないこと、疑問に思ったこと等、必ず、報告・連絡・相談をして欲しい。
- やる気がある学生でありながら責任感（社会人、働く仲間）としての）に欠けることは、子どもたちの前に立てないと思います。電話一本ですむことができないのは困ります。
- 色々とお手伝いを頂いたり、お掃除をしていただいたりで、本来の実習の他に余分なことをさせてしまい、申し訳ありません。職員だけでは足りない部分を助けていただいて感謝しております。
- 園が実習費を辞退すると、学生に還元されるのでしょうか？
- 前期が１週間というのは、実習生がちょうど慣れてくる頃で残念だと感じた。
- 大切な時間を実習生のために使っていると考えます。幼稚園教諭への夢を持たない方は、受け入れない方針です。幼稚園よりも看護師や保育士など他の職種を希望しているということのないようにして頂きたいです。
- 健康管理に気をつけ、最後まで明るく元気に実習できるようにして欲しい。
- 実習に来て頂いてとても気になったことは、実習ノートの字の乱れや線を引く箇所を定規を使わずフリーハンドで曲がった線を書いている点です。全てのことにおいて、丁寧に仕上げることを指導していただきたいと思います。

アンケート結果には、実習園側の要望が明確に出されている。実習園として、学生に対する指導方針は多岐にわたる。子どもへの関わり方から言葉づかい、実習日誌の書き方、教材研究や環境構成など、「実習の学び」の基本事項から、幼稚園教育要領など、国の定めた教育方針をふまえることなどにまで及ぶ。これら

のことから、実習園からは実習生ならびに幼稚園教諭養成校に対して、実習の中で、社会人として学ぶことだけでなく、教育者としての心構えをもち、教育者としての資質を身につけていくことが求められているといえる。

5. 本学の教育実習指導のまとめ

本学の教育実習指導をおこなってきて、教育実習担当教員が「教育的成果」と感じた点を以下にあげてみたい。

(1)「実習」という実践現場での学びの大切さ

教育実習Ⅰの事前指導では、学生が幼稚園の子どもについてイメージしたうえで実践を捉えていくことは、大変困難である。というのは、幼稚園の子どもの実態に十分に触れていないため、具体的な場をイメージすることが難しいのである。現場に出て、実践することを通じて学生自身が気づき、学び取る中で実習指導での学びを深めていくことになる。幼稚園実習を終えて学生が学んだことは、①保育所の子どもと幼稚園の子どもと違いがあった。具体的には、制度が異なることで、子どもと関わる姿勢、教育する立場としての意識が違うことである。②日常的に音楽が流れていて、音楽に触れており、音楽教育につながること、③環境設定による教育がなされている、の3点である。それまでの実習では経験していない新しい実習施設への現場実習に取り組む中で、幼稚園という教育施設の役割のみならず、教育者としての役割を学びとることができたといえよう。

(2) 教育実習Ⅱにつながっている学生の変化

事前指導、教育実習、事後指導を通して、学生の変化を以下に2点あげる。

①全体の学びに対する姿勢が変わってきているように感じられる。現場では、「先生」として求められる。現場では、具体的な保育技術が求められるということを自覚し、学びとろうとする姿勢がみられる。

②「社会人」として求められる経験をすることで次のような変化があらわれてきている。人に頼み事をする時は、一声掛けるようになった。言葉づかいや服装など、礼儀正しくなった。文章が書けるようになった。文章量が増え、文章の質も上がり、特に誤字、脱字に気を使うようになった。

6. 教育実習指導における今後の課題

(1) 本学の教科目と実習との連携

実習が、これまでに学習した教科の活用または応用であるとするなら、実習体験後は、学生の学習への態度、意欲が高まっていくはずである。専門科目と保育技術の学びを意識化させ、可能な限り実習時期と必要な科目とが連動していることが望ましい。将来、職場でこれからの子どもを保育していく保育者になるにあたって、基本的な常識、文章力などの基本的な能力を高めること、すなわち現場に生きる実力をもってもらいたいと考える。

(2) 教育実習の履修単位

事前指導として、幼稚園教育実習・保育実習をあわせて2単位として各実習指導を独立させているが、子ども理解に関してはすべて共通であり、事前指導の手続きやマナー、実習に向かう姿勢については共通点が多い。そのため、指導を二分することは、学生にとってあたかも内容的に違いがあるように感じられる。ややもすると、一般的社会通念に流され、幼稚園と保育所の格差であるという見方につながる懸念がある。幼稚園教諭免許と保育士資格を同時に取得する学生が今後増えていくと考えられる中で、幼稚園教育実習・保育実習を合わせて2単位として総合的に指導することが望ましいと考える。

(3) 先修条件について

表2に示した先修条件は、学生にとって意欲としてとらえられる場合と、「やっぱりだめな自分」という劣等感を抱いてしまう場合とがある。幼稚園教諭二種免許取得を目標に入学してきた学生にとって、また親にとっても大きな課題となる。だが、先修条件を1年次の段階で真剣に受け止め、学生の理解を促し、講義を受ける姿勢に積極性がみられるように指導していくことができれば、目的意識を持って学生生活を送ることができるのではないかと思う。この先修条件に関しては、学生にとって二面性があり、今後、本学の方針をふまえて検討する必要がある。

(4) 実習訪問と巡回指導について

実習訪問とは、表敬訪問という意味が無いわけではないが、表敬訪問だけに終わってしまっていることは考え直さなくてはならない。大学がどのような養成観をもち、学生に「なぜ」「なにを」「どのように」学んでほしいのかということを、実習現場に示す必要がある。また、実際の実習中に、どこでどのように問題が

生じているのかということについて、実習園と語り合う姿勢をもつことが大学側に必要である。学生がより実習をわがものにするための援助を行うとともに、大学として考え方を実習園に伝え、また実習園の考え方を聞き取り話し合うことが互いに理解を深めていくプロセスになるのではないか。その過程においては、大学側のカリキュラムを再構築していく必要性が生じてくる場合もあるだろう。そうしたときに、大学と実習園との間に、「ともに」という関係が成り立っていくのではないかと考えている。

謝辞

本稿執筆にあたり、実習園に依頼して実施したアンケート結果を使用させていただきました。また、本学の幼稚園実習を履修する学生に対しても資料掲載について理解、承諾いただきましたことを合わせて、感謝申し上げます。

（おがわ　ともえ　本学講師）
（やまもと　やえこ　本学講師）
（しばもと　えみ　本学講師）

参考文献

・小山祥子、2005、「教育実習と事前事後指導の現状と課題～3週間実習後の振り返りから～」『北陸学院短期大学紀要』第36巻、pp.39-54
・開仁志、2006、「教育実習の効果的な指導の在り方」『富山短期大学紀要』第41巻、pp.61-72
・全国保育士養成協議会(編)、2007、『保育実習指導のミニマムスタンダード』、北大路書房
・民秋言(ほか編著)、2004、『保育ライブラリ保育の現場を知る 保育実習』、北大路書房

Improving Guidance on Teaching Practice through Analysis of Current Teaching Methods in kindergartens I

Tomoe Ogawa*, Yaeko Yamamoto**, Emi Shibamoto**

Abstract

In this paper we have examined and analyzed the problems of the kindergarten teacher training course which has begun in our college this school year. Examining the contents of teacher training practice at the kindergartens, and the guidance before and after the practice, we are expecting to obtain the perspective, so that we can find out the problems to be improved.

First, we explained the aim of our teaching practice and contents of the practice in kindergartens. Then we considered how students had studied through their teaching practice by analyzing the students' observation records. The records showed that the students fully realizd the importance of pre-school education, observing the kindergarten teachers' eagerness and attitudes as professionals. In addition, analyzing the students' teaching practice in kindergartens through their self-evaluations, and the questionnaire conducted by the kindergartens, we have found out the reality of our students and kindergartens' expectation for them.

We have found that it is important for students to be careful about the language they use in the kindergartens at all times, to keep training diaries appropriately, to study instructional materials, and to prepare educational environments.

These are the fundamental essentials for the students to realize the desired results of the practice. Also, we are requested to teach students more about the Kindergarten Education Guidelines.

Keywords : Teaching practice, guidance on teaching practice, training curriculum of kindergarten teacher, evaluation of teaching practice

*Osaka College of Social Health and Welfare
〒590-0014 2-8 Tadei-cho, Sakai-ku, Sakai City, Osaka
Osaka College of Social Health and Welfare
Department of Child Welfare and Education
E-mail: t.ogawa@kenko-fukushi.ac.jp
**Osaka College of Social Health and Welfare